

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者、家族、職員、地域の方々が、わからない言葉では通じ合えないのではないかとということで、話し合っていて決めている。 「笑顔で安心、一緒に暮らそう、ずっと家族だよ」	時々利用者が声を出して読んでくれるので、「よろしくの、毎日一緒なんだから楽しくしましょう」というと「そうだね、こっちこそよろしくの」と返ってくることもあるので、それがうれしい。利用者、家族、地域、職員とのつながりが十分に出来た時点で、必要であれば、利用者、家族、職員で話し合っていて検討したい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者、家族、職員皆が共有できる内容で、さりげなく掲示し、時には、声に出して実践できるようにしている。	難しくしないで、利用者、家族、職員皆がいつ見ても、安心できる、確認できる内容で掲示し、日々意識できるように心がけている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	「そわん」入り口、各階の皆が見えるところに、理念を掲示し自然ときずき、理解できるように(解っていただけるように)努力している。	・名刺の裏面に理念を印刷して、関る方にお渡ししている。 ・家族会を利用し、じっくり話し合っていていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	裏のおばあちゃんや、美容室の先生など声かけしている。各居宅支援事業者の方や、面会家族の方などにも、お茶飲みや、話し相手に立ち寄ってと声かけしている。ホームでの行事には是非出かけていただきたいとパンフレットなど、利用者で配布している。	・お楽しみ芸能行事には案内のパンフレットを利用者と配布。 ・散歩の際には必ず声かけしている。 ・散歩の途中で、時々お花などいただいたりすることもある。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の民生委員さんやボランティアさんと交流している。地域の行事に参加できるように、ホームのことをもっと知っていただかなければならないと思う。	自分たちのホームから、いろいろな取り組みを計画し交流できるように計画したい。夏休みの学生ボランティアの受け入れも申請している。町内の係りの方と交流が出来るように、声かけをしなくてはいけないと、思っている。8月に半日中学生から来ていただくことができ嬉しかった。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	家族会でホームの紹介を地域に向けて発信してよいか相談の上、ホームのPRが出来たら、寄って頂けるようになるのではないかと思う		何かできればとは思っているが、現在は自分たちが安定して暮らすことを重点的に思っている。将来的には介護者の息抜きの手伝いが少しでも出来たらなーと思います。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての事業なので、職員全員でとにかく自己評価を実施してみることにした。まとめた内容でケア会議に図り全員で向上できるように検討していく。		記入してみると実施しなくてはいけない内容が、見えてくるため参考になっている。評価の内容で改善していくことで、利用者、家族がより安心してホームの利用が出来るように、職員がより太いきづなでつながるようになりたいと思う。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域密着型として、地域との交流を実施しているかどうかとの質問が多いが、意外と難しいのが現実です。包括相談員に公園や神社の草取り奉仕などから入ったらどうかアドバイスをいただいたが、現実的には中々難しい。		地域からの誘いを待つだけでなく、自分たちで発信することを検討し、私たちが、地域に居て、楽しく生活していることを知っていただきたいと思う。民生委員さんから良く声かけていただいている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉保健課担当や包括支援センターと連携し、指導いただきながら、要望したりして、向上につながるよう努力している。		グループホームは在宅生活より、金銭的に負担が大きい、在宅生活だということを、市からわかっていただき、在宅と同じサービスが利用できるように取り組んでほしい。(介護保険以外のサービス)紙おむつ券など、介護予防体操の出前の検討依頼。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	支援連絡協議会などの勉強会で知識としてはある程度わかっており、社協担当と連携できるよう努力している。又職員においても市の研修など積極的に参加していただくよう声かけしたいと思う。		社協専門員と連携している。解らないところは指導いただくことができる。専門員から教えていただきそれを利用者家族等に連絡している。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全国グループホーム協会主催の研修や、市主催の研修など受けており、日々意識しながら利用者と関わっている。		言葉の虐待が気づかないところで、発生していないかが不安。機会あるごとに言葉の虐待について話して行きたいと思う。意識しすぎてギクシャクしないようにが大切。優しい気持ちで、自分に置き換えてみたりしながら無理なく、関わって行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明不足かもしれないが、聞いていただいたことは説明し、その場で不十分なときは次回説明できるように努力するようにしている。		入居申請後何度も見学に来ていただき、職員、利用者と交流していただき、どんな所なのか良く知っていただいているが今後も継続していきたいと思う。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から家族や面会者に、いろいろな思いを、居室でゆっくりと話が出来よう、お茶や茶菓子を居室に届けゆっくり話し合っただくようにしている。		第3者の外部介護相談員なども、市と相談しながら訪問していただけるように検討予定。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	居室担当から1ヶ月の体調や生活の様子、うれしいエピソードなど、管理者から生活の様子の写真や、個人会計(お小遣い)まとめ、連絡事項などの通信を毎月お届けしている。看護師からの報告も検討している。		「あったか通信」「連絡便り」「お小遣い会計報告」等
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・そわん内で解決できない苦情については、市、県に上げられるよう連絡先を掲示している。 ・そわんへの意見など話しにくいときは、メモに記入して提案できる様設置している。		・3階に冷蔵庫設置。 ・1階ホールに意見記入用紙と袋を設置。(投書箱を検討) ・作成済
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改善提案書を作成し、提案できるようにしている。そのつど社長、管理者のところで検討、話し合いが出来るように努力している。		ケア会議の場で社長より説明がある。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表を組む前に希望休日の申請を頂き、作成に活かしている。		終末期まで関わらせていただくことを前提に十分話し合いながら検討したいと思っている。 非常勤職員との話し合いで緊急時の調整が出来るようにしている。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	・認知症対応型共同生活介護事業・感染症対策・事故防止・看取りに関する・避難訓練・食中毒予防など何とか作成しました。職員全員に配布し、見直し検討実施中です。		必要に応じて随時検討し、差し替え全員に徹底する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県のGH協会研修。全国GH協会研修など積極的に参加し、ホームの質の向上や個人の向上が出来るよう検討していきたい。		ホームとしての向上につながる研修に参加できるように検討する
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	魚沼地域全体のグループホーム連絡会に参加し指導いただいている。魚沼市でも検討されている。		市内の同業者と交流を図ることで、お互いが向上し、気分転換が図れたり、同じ意識が持てるような場づくりになればと思っている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務改善提案が出来るように提案用紙を作成し、提案していただくようにしている。		提案について出来ること、出来ないことについてケア会議で説明している。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	出来る限り把握し、努力をしているが、これからは個々の面談などで意見を聞き取れる時間を作り、お互いの真意が通じあうような職場にしていきたい。		何を提案しても反応がなく張り合いがない職場といわれないうちに社長、職員と一緒に向上できる職場にしたいと思っている。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	居宅からの紹介時から、じっくりと相談や要望に対応し、本人がホーム入居後もその都度聞き取りながら信頼関係が気づけるように努力している。		家族からの面会が何よりの楽しみ、待ち遠しいことのようなので、本人と話し合いながら、不安げな様子などが感じられるときは、家族に連絡し面会に来ていただくようにしている。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	相談時家族の不安を十分に聴かせて頂き、ホームで受け止め関わっていただけることを話し合っていたくようにしている。又入居後も家族が安心できるまで何回でも面会に来て頂きさらに十分話し合うようにしている。		今後も十分に話を聴かせて頂きながら、安心していただけるまで、気がねなくホームに出向いていただけるような雰囲気作りをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族から相談されたときには、十分話し合っ必要支援を検討し、職員全員で対応支援している。		利用者の笑顔が多く見られる支援を継続的に実施していく。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してホームで生活できるように、時には家族から宿泊していただいたりする中で、十分馴染んでいただけるように努力している。		利用者の居室の1軒々がその人の暮らしてきた自宅のお部屋になるように家族と協力していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭で行っている主婦、主人の仕事などを、一緒に行いながら生活する中で、家族として本音で話し合いながら良いことは良かった、悪いことは悪いとはっきり伝えることが出来る信頼の関係が築けるように、関わっている。素晴らしい事、ありがたいこと、きちんと伝えていく。		家庭なので同じことの繰り返しの中で生活が、継続していると思うが、いつもの事という安易な判断はせず、利用者本位に関することを大切にする。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを大切にしながら、その思いを共用し一緒に考えていけるように関わっている。		家族とのつながりが遠くならないように連携を十分にとって支援する。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の様子など、各担当ごとに本人の様子を連絡し家族から分かっていたりしている。必要があるときは電話連絡なども実施する中で家族との絆を深められるように努力している。		利用者と家族が離れていても、心がつながっているという安心できるサービスを提供できたらと考えている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症グループホームに入居という事で、閉鎖的な(世間と違う)のではないかというような意識を地域の方に与えているような気がする。出来るだけ入居前と家が変わっただけで、後は何も変わっていないことがアピールできるよう、友達がどんどんお茶のみに来てくれるような関わりができるよう支援している。		<ul style="list-style-type: none"> ・友達のところへ遊びに出かける。 ・買い物や作品鑑賞などに出かける。 ・地域の中へ散歩に出かける。 ・色々な方へのお茶の誘い。 ・山菜取りに出かける。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	開設から半年が過ぎ、利用者同士の交流も多く見られる様になって来ているので、見守りながら支援している。		<ul style="list-style-type: none"> ・トイレへの付き添いや居室への送り。 ・一緒に部屋で寝転びながらにやら話し合っている。 ・花札をして楽しんだり、昔のことを話して楽しんでいる。 (問題発生時に利用者の責任にならないように、必ず見守るなかで、楽しく交流していただいている。)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も相談できるように、こちらから様子を尋ね連絡を取っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入浴時や、居室訪問時1対1でじっくり、聴き取りできる範囲で意向に沿うよう努力している。 ・どなたも家のことについて嬉しそうに話してくれるので、たまには叶えてやりたいと思う。		・家族と相談しながら、家庭訪問できる日を作りたい。(家族、職員で十分検討していきたい) ・家に入れなくとも見学だけでも同行している。(ドライブ)
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にいくらかは聞いているが、今後お互いの信頼関係が出来た中でセンター方式を利用しながらじっくりと聞いていきたい。		センター方式を利用し、本人、家族、友人などに教えていただきながら記録し、それを活かした関わりが出来るようになっていく。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々全体の様子、個人の様子を申し送り引継ぎする中で毎日が安全で楽しく生活できるように支援している。		申し送りで一人々の状況を、把握、共有し変化に敏感になれるような毎日の中で、関って行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時は、ホームに馴染んで健康な毎日を、送られることが本人、家族の目標でしたが、更新の方から徐々に見直し職員の声やアイデアなど含め柔軟に改善したプランを作成している。		月1回ケア会議実施、意見など話し合っそれを基に作成している。半年が経過したことで本人、家族とのつながりが安定し前向きな話し合いが持てるようになってきている。今後は本人、家族、居室担当、看護師、ケアマネ、(必要あれば主治医の意見など) で個別ケア会議の検討も実施したい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々様子が変わることもある中で柔軟に対応見直し又必要であれば本人家族、職員、主治医と話し合い見直ししている。日々変更することあるときは赤ペンで2表に記入してもらっている。		必要に応じて対応見直しをして、統一した関わりを持つようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を参照しながら日々気づきなど記録し、全員で共有した中で見守り支援を行っている。又プラン見直しにもつなげている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	単独型ではあるが、他機関との連携もはかり、その都度できる範囲で対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアさんから協力頂き感謝している。		・本人、家族も一緒に避難訓練など実施して行きたい。 ・市内GHで共同の研修など出来たらいいと思っている。 ・夏休みの中学生ボランティアの協力依頼を社協に申請。 ・地域友愛ボランティアさんへの協力依頼。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			市が行っているトレーニング教室と話し合い、ホームの利用者が参加できるような場を提供できないか検討依頼中。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の場や、ケア会議の場を活用しGHが在宅サービスのひとつであることを訴えて、地域の方と同じ在宅サービスが受けられるようお願いしたいと思っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診については、サービスの一環として無償で通院介助を実施している。 ・緊急などで他の医療機関や病院に係るときは話し合いのもとで1回 円と、取り決めして行っている。		係り付け医との、カンファレンス検討中。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門病院のワーカーや、院長、医師といつでも連絡し、指導いただけるように関係している。		専門病院主催の講演会や検討会に参加している。職員にも声かけしている。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が職員として月～金まで勤務、日々健康確認を行ったり健康相談に乗っている。		看護師からターミナルケアに向けた職員の心構えなどについて施設内研修が出来ればと思っている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	1度だけ入院者が出たが、その際には職員が時間を見つけては毎日病院へ様子を伺いに訪問した。		病院では安全確保のため拘束されるため、ADLの低下が大きくなっていくことが日々感じられたので家族を通じて早期退院をお願いし、実現できた。2回目の脳梗塞の際には通院で点滴治療させていただき入院につなげなかった。(主治医了解のもと)
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今後家族会や面会時などを通じて、本人、家族と十分に話し合いをしていきたいと思っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームでは終末期も受け入れていく予定ではあるが、複数の医療が必要な場合には困難の場合もあるため、どんな状態での看取ができるかなど検討予定。		職員の意識の統一が必要、実際に関る前に十分な勉強会などが必要と思われる。 家族、協力医、看護師、職員が連携し十分検討していく。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅からグループホームへの入居で、大きな不安があったことと思うが本人、家族、社長、職員全員でお互いに十分な関わりができたことで安定できたと思う。		退去の方が2件ありました。1件は病院でないと生活が不安で、小出病院へ戻られた方。もう1件は娘さんが退職されて引き取られ自宅へ戻られた方は、電話連絡があり元気で暮らしているとのことでした。 今後特養への転居の問題が出てくると思うが、本人、家族と十分話し合い、意思を尊重していきたいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者によって、トイレのドアが開いていないと不安の方も居るが、お客様などおられるときは一緒に中に入り閉めている。出来るだけプライバシーの損害にならないように言葉などにも注意するように全職員が気を配っている。記録や薬はかぎのついでに保管している。	言葉ひとつで子ども扱いに感じたり、えらそうにしていると思われるため、日々意識しながら声かけしお互いがいい関係で居られるように支援する。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ本人の意思を尊重し支援しているが、分からない、出来ないと訴えてくる方も居るのでそんなときは、こうしたほうが良いのではと声かけもしている。利用者の中には自分で自分に言い聞かせるように繰り返し言っている方も居る。それでも何度も自分に言い聞かせているということは不満があるときのような気がするので意識的に声かけし誘っている。	入浴時やお部屋でじっくりと話合うようにしている。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出したい方が多いが中々出来ないこともある。朝食後一人ひとりに何をしたいか聞いたりして、「ああ 今日良かったぜやあ」と思っていただけ1日を過ごしていただきたい。	利用者の思いを叶えられるような関わりをしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	口紅1本で表情が活き活きするので、よそ行きの服なども用意して頂き誕生日会などにおめかしを楽しんでいただきたい。	イベントの日は職員もおしゃれして楽しめるといいかもしれないですね。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	山菜や裏の畑で取れた野菜を利用して、昔懐かしい農作業など思い出していただけるような話かけをしている。	買出しの前にチラシなど見ながら、何が食べたいか聞いたりしながら皆で楽しみたい。ラーメン屋や、すし屋など食べたいものを一緒に食べに出かける。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康に問題ない程度に楽しんでいただいている。酒、タバコについては現在希望者がいないのでホーム内にはない。	食中毒に配慮しながら、出来るだけ面会時のみで食べきれるような内容でと、家族にお願いしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	最近はそのそれぞれのパターンがつかめてきているので利用者のほっとした表情で、職員も安心することが出来る。リハビリをやめて、布パンツに変えることが出来た方が何人が居る。		防水シーツの利用で安心して熟睡できるようになった方も居る。(家族と相談して防水シーツの購入実施)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則として毎日入浴できることは、本人、家族に説明している。希望者というと中々入浴していただけないので、毎日3名くらいは順番で入浴できるように支援している。夜入浴できれば良いとは思いますが現状では実施していない。(とりあえず現状では予定なし)		その日の状況で柔軟性を持って対応できるようにしている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	専門病院から入居された方が、夜殆ど眠れないため主治医と相談しマイスリーなど眠剤を試したが不穏状態になるだけで効き目なく危険なだけのため眠剤は中止している。		他の方は安定しているので、この方が不穏状態となると表情が暗くなるのが心配。主治医と連携し、良く相談していきたいと思う。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・朝体操の歌係 ・ロールカーテンの開閉係り ・食事の手伝い係・買い物手伝い係・掃除手伝い係 ・洗濯干し係 ・天気カレンダー記入係りなど多くを一緒に手伝っていただいている 皆さん役に立っていることがとても張り合いで活き活きとした表情が見られるのが嬉しい。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が持っていることで安心感があるようなので、本人家族が納得した上でいくらか持っていていただいている。		外食などのときに支払っていただけと思う。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・散歩が張り合いの方が多いため天気や気温の様子を見ながら出来る限り外出している。 職員の都合もあるので多少時間のづれる事もある。		安全に注意し一人では出ないでくださいとお願いする中で何とか楽しんでいただけるように努力している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅への請求書配布時に希望の方のみ同行している。 マイクロバスの利用で花見に出かけている。		秋には家族も一緒に加わって出かけられるように、家族会で話し合いたいと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があるときはダイヤル回すなどの手伝いをしている。絵手紙が出せたらいいと思うので、簡単な塗り絵式のハガキを用意しているが中々実行につながらない。		家族や友人とハガキの交換が出来たら、又家族から出してもらえるだけでも大いに喜びを感じていただけたらと思うので、検討していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来ていただくと本当に嬉しそうに、生き活きた表情を見せていただけるので、必ず又是是非来てくださいと声かけお願いしている。 居室でゆっくり話し合っただけのように、お茶を居室に届けている		いつでも気がねなく、出かけてきて頂ける様に、関わって行きたいと思っている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしないということで全員一致して関わっている。 気がつくとベットから降りてしまう方がいて、家族と話し合っ てベット廃止し布団対応とした経験がある。(その前に家族から ベット柵を床側に2本使ってくださいと言われて試したが返っ て危険で中止した)		拘束については全員が十分気配りしている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。 1階の事務所が留守になるときのみ、施錠している。 夜間は7時30分遅勤のかたが施錠、訪問者からはチャイム で声かけしていただき確認後開錠するようにさせていただ いている。		居室窓にもストッパーはついているが、声かけがあれば、いつでも全開できるようにしている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の気持ちを大切にしながらも、注意深く見守り、どこに居るか把握できるようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現状では特に見られないが薬についてはカギのかかる保管庫で管理している。包丁などは必要があればいつでも施錠できるように用意はしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・手すりの取り付けを実施したり、滑らない室内履きをはいていただいている。 ・ガスについては台所で一括管理が出来るので準備が済むと元栓を閉めている。 ・薬については看護師が一人ひとり配薬したものを職員が確認しながら服用を見守って居る。		窒息対策として吸引ノズルを用意しているのでこれから使用方法など職員で勉強していきたいと思っている。ヒヤリハットの記録から改善できるところは実行し一人ひとりしっかりと見守り事故につながらない、安全な支援をしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	開所前に消防署で研修を受けている。		消防署を含め、市内グループホーム全体で、研修や講習会が実施できないか、区分別ケア会議などで検討していただくよう提案予定。ホーム単独でも検討予定。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	家族会、運営推進会議を利用し協力依頼をしていく。		最近の地震の時には県の職員や市の包括支援センターから、安全の確認などがあり嬉しかった。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族会のときやプラン確認時などに必要に応じて話し合うようにしている。		今後ホームで、暮らせなくなる可能性もあるので、個別に話しあって行きたいと思う。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員全員が利用者の様子に注意し、異常を感じたときには、看護師、管理者に連絡し協力医、主治医と連携し早期対応が出来るようにしている。夜間でも連絡体制がハッキリしており実行している。		様子を見ながら家族にも連絡できるよう話し合っている。緊急時以外については対応が終了後必ず家族にも報告している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を一覧表にしてケース記録台帳に添付、いつでも確認できるようにしている。変更時はケアマネにも報告があるので記入しなおして変更したものを添付している。薬剤の効能についても簡単ではあるが記入している。職員はいつでも確認できるようになっている。目新しいような薬についてはインターネットで確実に引き出し内容が分かるように添付してい		状況に応じて看護師、主治医と連絡を取り、正しく処方されたものを管理配薬で、一人ひとり確認している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を中心にした食事や負担のない運動など工夫しながら自然排便できるよう関わっている。どうしても困難な方については主治医と相談し下剤など調整していただいている。		日々排便の確認を看護師を中心に実施している。教えていただいたり気づいたときにはカレンダーに記録し、看護師が健康確認表に記載している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけで支援実施していただいている。自分で実施する方にも声かけしている。		看護師、職員で見守りしている。必要な方については介助や支援を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の身体状況に応じて分量を調整している。塩分なども確認しながら、見た目も味も美味しい食事を用意している。		体重管理もめやすにしている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	市や県の研修に積極的に参加し、全員で意識して発生しないように心がけ対応している。マニュアルも参考にしている。		イソジンのうがい。消毒薬での手指の消毒、調理機材の衛生管理、消毒の実行をし清潔に努めている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	保管分を出来るだけ減らして、日々新鮮な材料が使用できるように心がけている。		利用者の外出支援の一環で、出来るだけ毎日買い物に出かけ、新鮮なものが食べられるようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はホームの顔なので、何時も明るく気持ちがいいように、花や写真でお客様が迎えられるようにしている。		ボランティアでパンフラワーなど提供し季節ごとに、入れ替えてくれる方がありとても助かっている。駐車場に関しては狭いので隣の歯科医駐車場が使用できるようにお願いしてカード作成発行している。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や写真、ボランティアさん協力による絵画などで居心地がよくなるように努めている。		音については何処の家庭でもある音だと思うので、返って静かすぎるよりは心地良いのではないかと思う。雑踏の音も生活音のひとつだと思う。室温や光については職員間の気づきの申し送りや本人の希望で対応している。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間、サンルーム(洗濯干し場)など工夫して気楽に、気持ちよく利用できるように工夫しているが職員の関わりでもっと気持ちよく利用できるようになると思う。		居間の椅子の工夫。サンルームの雑多感の解消の工夫。食堂での座る場所についての検討。(メンバーはそのままテーブルの位置を変えるなど)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には徐々に、本人の馴染みのものを用意して、頂ければ良いと思う。半年過ぎて家族も本人も何が必要かわかっているのではと思うので、必要なものは届けていただいて問題のないことを説明していきたいと思う。		家族会や面会時を利用して話しあって行きたいと思う。職員全員が声かけしていく。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室には換気やエアコンでの空調が出来るようになってくる。突然の排便などで臭いが気になるときは緑茶をいって消臭に利用している。		個々の部屋の臭いや室温などその都度本人と確認し合いながら調整している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり取り付けや段差調整、滑り止めの工夫、表示など本人や家族と相談したりしながら実施している。		ポータブルトイレのクリーニング(消毒)及び抗菌マットなど家族と相談しながら検討したい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室や下駄箱には本人の好きな花の写真と名前を掲示し分かっていただいている。今後本人の写真も掲示したいと思っている。(了解は取っている)		利用者の要望で声かけられたり呼ばれたときに、十分関ることとわかる支援が出来ると思う。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地の都合もあるが、畑やピロティーを利用して楽しんでいる。		畑への通路の歩行に注意をする。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・職員がグループホームの仕事を楽しみながら生き生きと仕事をしているところ。

・声かけしやすい、相談しやすい環境を作る努力をしているところ。

・運営者の利用者に対する優しい思い、気配り、声かけを実行しているところ。

・出来る範囲で外出の機会を作り、地域の中に溶け込んでいこうとしている姿勢。

・旬のものを多く取り入れ利用者にとって馴染みの惣菜が食卓に並ぶこと。